

『Shoin ELTC Forum』の発刊に寄せて

英語教育センター長 安藤公仁

学校法人樟蔭学園英語教育センターの設立から3年が経過しました。この間、学園では大学の英米文学科の国際英語学科への改編と、それに伴う本学独自の実践英語集中プログラム、ELPP (English Language Passport Program) の開発、「中高一貫教育コース」の設置や英語が使える小学校等の教員を目指す「児童教育コース」の設置等、様々な改革が進められてきました。これらの事業を成功させるためには、学園の英語教育を更に充実発展させることが必要であり、各校種の先生方は、先進的な研究活動や教育実践に積極的に取り組んでこられました。

今年度の事例をいくつか挙げれば、中学校・高等学校では、中高一貫教育コースのための英語教育プログラムの研究・研修、高等学校進学コースの英語科教員による改善チーム会議の発足、児童教育コースの生徒と希望者を対象に「小豆島あずき王国英語村」で実施された English Camp、更に、ELPP への接続がデザインされている、高等学校の選択科目のために開発された高大一貫英語教育プログラムなどがあります。また、大学では、小学校教員のための外国語活動研修講座の実施、ELPP の骨格をなす CEFR 「ヨーロッパ言語共通参照枠」に関するシンポジウムの開催などがあり、大きな成果を上げています。また英語教育センターが主催するワークショップも最新的话题を提供し、多くの参加者を集めています。

このように、樟蔭学園の英語教育に関する研究と実践は、ここ数年来非常に充実したものとなっています。しかしながら、それぞれの取り組みの成果と課題に関する情報が学園の英語教育関係者に広く共有されているとは言えない憾みもあります。学園全体の英語教育の発展には、各校種、各部署のさまざまな立場の関係者が、情報を共有し、意見を交換し合うことによって、新たな価値や知見を生み出していくことが不可欠だと思います。

『Shoin ELTC Forum』は樟蔭学園で英語教育に携わっている全ての人のための「実践報告の場」「情報発信の場」「意見交換の場」として活用して頂けたらと考えております。“Bulletin”とか“Journal”ではなく、“Forum”という誌名にしたのもそのような意図からです。本誌が多くの人に親しまれ、将来は英語教育の新たな地平を切り開くような論文の発表の場としても成長していくことを願っております。